

「 陵南小学校・玉利の棒踊り 伝承活動の取組 」

1 学校名

霧島市立陵南小学校

2 学年・人数

小学5・6年生 (計106人)

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

7月～9月中旬 運動会前の体育学習・総合的な学習の時間 陵南小学校体育館

(2) 発表の日時・場所

9月下旬 陵南小学校秋季大運動会

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事や史跡について

(1) 名称

玉利の棒踊り (たまりのぼうおどり)

(2) 由来

「玉利の棒踊り」は、明治時代ごろから「五穀豊穡」と牛や馬の「病氣退治」を願い、神社に奉納しながら踊ってきた伝統芸能です。この棒踊りでは、他の地方・地域で一般的に使用されている「六尺棒」ではなく「ナタ」と「カマ」を使用して踊ります。踊りは勇ましく躍動的で「ナタ」と「カマ」を「カチッ」と打ち合い、火花を散らし、「踊る人」・「見る人」の意気込みを高め、心をなごませてくれるのが特徴です。

(3) 構成等

まず二列縦隊で並んだ「ナタ」の列と「カマ」の列が歌者の節回しにあわせて正面を向いて踊り始めます。その後、節が進むにつれて「ナタ」と「カマ」が向かい合い「ナタ」と「カマ」をぶつけ合いながら踊ります。そして、後半部分では、前後左右の四人組にもなり、動きがどんどん勇壮になっていきます。運動会では入退場や場所移動に和太鼓の「ドンドンドン……」という響きを取り入れています。

5 保存会や地域との連携の具体

「玉利の棒踊り」は、昭和30年以前は毎年のように近辺の神社や「田の神様」に奉納されていましたが、踊り手が徐々に減り、いつのまにか廃れてしまいました。昭和42年に一度復活しましたが、最近まで40年以上、棒踊りは途絶えたままでした。これまでの経緯を踏まえ、平成20年5月に会員25名(55歳～80歳)で「玉利棒踊り保存会」を発足し、長年

途絶えていた棒踊りを40年ぶりに復活させました。会員の皆さん方は40年前の青年時代に棒踊りを経験された有志の集まりです。また、保存会では棒踊りの保存・伝承活動のために、年3回の奉納や披露などを計画しています。12月上旬には、年間行事の一つである地区内の「田の神様」へ、五穀豊穡の感謝と祈願を込め棒踊りを奉納しました。この奉納では、昔ながらの「かしわ刺身」、「かしわずし」、「煮しめ」などのお供え物が料理され、奉納後にはこのお供え物で懇親会を開催し、会員相互の和や伝承活動への意欲が一層高まりました。

しかし、保存会への若い人たちの加入はほとんどなく、現在の会員は高齢のため、保存伝承活動が危ぶまれる現状で苦勞していました。そんな中、平成24年の陵南小学校運動会で、5・6年生全員で「玉利の棒踊り」を地域伝統芸能の表現として、踊り始めたことで、伝承活動に明るい兆しが見えてきました。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

学校と地域が連携協力しながら棒踊りを継承していくために、7月には初めて棒踊りを踊る5年生に対して、保存会の方や6年生から間近に「棒踊り」を見せてもらい、全体的な流れと「棒踊り」への意欲を高めています。その後9月に入ると総合的な学習の時間や体育の授業として5・6年合同で「棒踊り」の練習に取り組みます。「ナタ」として踊るか「カマ」として踊るかについては本人の希望を大切にしながら、それぞれの所作に合った方で踊るようにしています。基本5年生時に選択したものを2年間踊るようにしています。保存会の皆さんも輪番で学校での練習(週1回程度)を観てもらい踊りにみがきをかけていきます。

5・6年生100人前後(4列縦隊)で踊るので、浴衣や法被はありませんが、体育服におそろいのハチマキ・タスキ、そしてこしひもをまいて踊ります。地域からの浄財で人数分のナタとカマを特注で作っていただき、また紐類もそろえていただきました。いつかは浴衣や法被姿で踊ってみたいという夢を抱いています。

平成25年からは踊り手だけでなく、祖父から孫への「歌者の伝承」として祖父・孫での歌披露にも取り組んでいます。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



再開した棒踊り風景①



再開した棒踊り風景②



体育館での練習風景



秋季大運動会での発表風景

8 参加児童・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

5年生の時は初めて踊るので動きを間違えないようにすることだけで精いっぱいでした。6年生では、少しゆとりをもてて、困っている5年生にアドバイスすることができるようになりました。6年生で終わるのももったいない気がします。6年生になったら5年生に教えていくことも陵南小のいい伝統として残って行ってほしいと思います。（児童-6年生-から）

私たち親の世代は「棒踊り」に接する機会がありませんでした。その分「棒踊り」に取り組む子どもたちの生き生きとした姿がうらやましく思えます。子どもたちが大人になり、ふるさとを思い出す時の大切な行事として、この「玉利の棒踊り」をこれからも続けていって欲しいと感じています。（保護者から）

棒踊りの細かな所作については、なかなか覚えられず、保存会のみなさんや2年目になる6年生のアドバイスをとり入れながら練習に取り組んできました。保存会の指導があるときは毎回10名を超える皆さんの支援があり、パート練習も充実してきています。子どもたちも真剣に取り組む姿があり、陵南小のよき伝統として根づいてくれることを期待しています。

(教職員から)

学校(運動会)で「棒踊り」を踊るようになって3年、子どもたちも担任の先生方も着実に上手になってきています。また、指導する私たち保存会でも子どもたちへの指導の仕方や声のかけ方等を協議・検討し、接するようになっています。学校だけ、保存会だけが頑張るのではなく、相互に高め合っていけるよう学校(先生方)との交流を今後も積極的に図っていきたいと思います。(保存会から)